



ARCHITREND
Modelio

Modelio・ZERO データ連携編

ARCHITREND ModelioとARCHITREND ZEROのデータを連携することで設計やプレゼンの効率化を行うことができます。

本書は、「データ連携」をおこなうため、連携の手順や事前に確認すべき項目・注意点などを解説したテキストです。

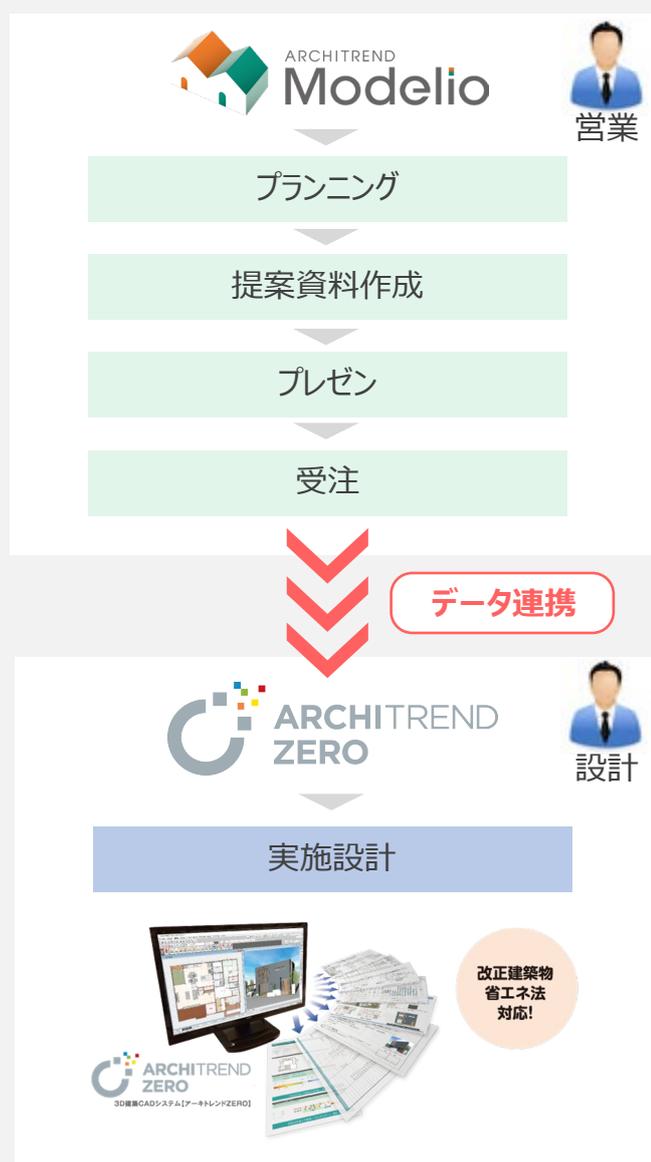
1. データ連携の流れ	1
1-1 お悩みから解決！おすすめデータ連携運用	2
2. データ連携の方法	3
2-1 ModelioからZEROへの連携	3
2-2 ModelioからZEROへの連携【AT Drive編】	5
2-3 ZEROからModelioへの連携	7
2-4 ZEROからModelioへの連携【AT Drive編】	9
2-5 補足	10
3. 補足・注意	11
3-1 ModelioからZEROへの連携で事前に確認すべきこと	11
3-2 ZEROからModelioへの連携で事前に確認すべきこと	15
3-3 連携対象外の部材一覧	19

1

データ連携の流れ

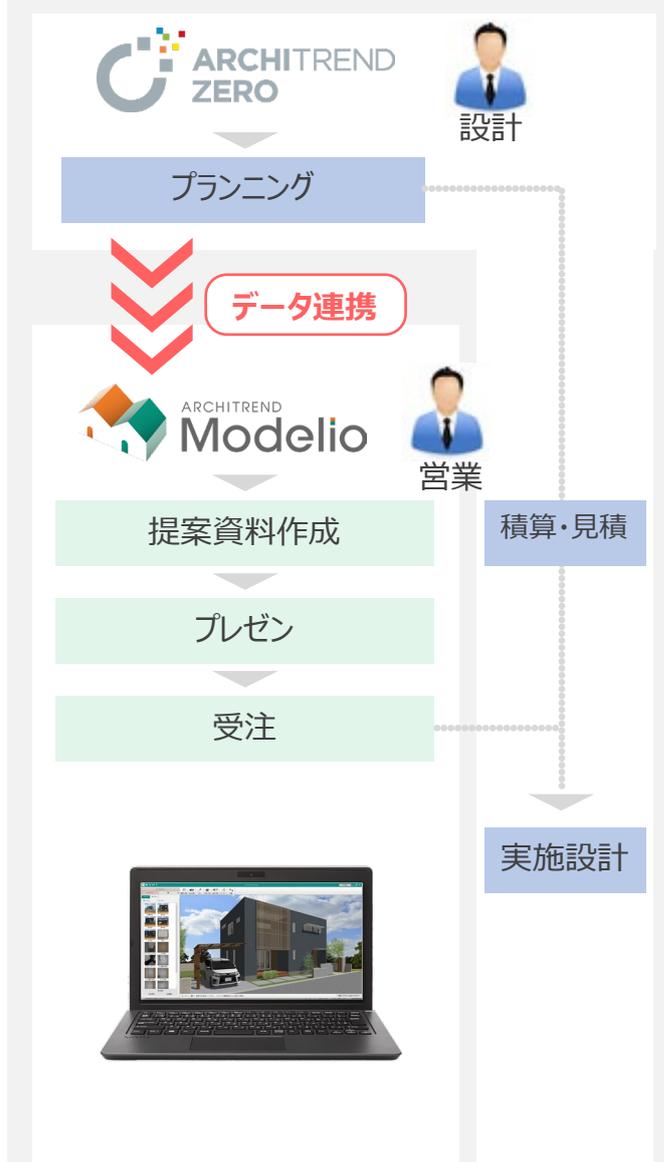
ARCHITREND Modelio（以降、Modelio）とARCHITREND ZERO（以降、ZERO）は、データ連携を行うことによって設計業務、プレゼンの効率化を行うことが出来ます。ベテランから新人、プランを書ける人と書けない人が混在する中で会社毎に合ったデータ連携の運用が可能です。

運用方法① Modelio ⇒ ZERO 営業から設計へのデータ連携



- ✓ 営業は Modelio で素早く提案・受注。
- ✓ 設計は Modelio データを ZERO に連携することでプラン入力が省力化され、実施設計に効率よくボタンタッチが可能。

運用方法② ZERO ⇒ Modelio 設計から営業へのデータ連携



- ✓ 設計は使い慣れた ZERO で法的に考慮されたプランニングを行う。
- ✓ ZERO データを Modelio に連携することで即座に提案・資料の作成を行える。
- ✓ 新人や営業にプランニングの知識がなくても Modelio を活用したプレゼン強化が可能。

1-1 お悩みから解決！おすすめデータ連携運用

よくあるお悩みからModelioのデータ連携運用方法を提案します。

 Modelioで作成したプランを実施設計で2次
利用したい。

Modelio ⇒ ZERO 運用がおすすめ



ZEROでのプラン入力を省力化できるため、スムーズに実施設計業務に移行。

 Modelioで作成したプランを積算業務に活
かせないか。

Modelio ⇒ ZERO 運用がおすすめ



様々な機能を備えたZEROの積算機能を活用。データ連携でプラン入力を省力化し、積算業務の生産性をアップ。

 営業はベテランや建築系有資格者でプラン
ニングは可能。とにかく初期提案のプレゼン
を強化したい。

Modelio ⇒ ZERO 運用がおすすめ



採光換気・壁直下率のチェック機能などを活用しながら、Modelioで素早くプランニング・プレゼンを行う。受注後はデータをZEROへ連携して実施設計業務に引き継ぎ

 初期提案から法規的なチェックを行ったプラン
をZEROで作成している。このデータをプレゼ
ンに活かしたい。

ZERO ⇒ Modelio 運用がおすすめ



ZEROでのプラン入力を省力化できるため、スムーズに実施設計業務に移行。

 営業や新人は設計のプロではないためプラン
を一から書くことは難しい。法規的に考慮され
ていないプランが出来てしまい結局手戻りに。

ZERO ⇒ Modelio 運用がおすすめ



ZEROで法規的に考慮されたプランを作成し、Modelioに連携後提案資料を作成することで業務負担を分散。

 初期提案のプレゼンを強化したく営業にコミュ
ニケーションツールとしてModelioを使ってウォ
ークスルーや3Dでの提案をしてほしい。だが
現状覚える操作が多く運用がなかなか進ま
ない。

ZERO ⇒ Modelio 運用がおすすめ



設計がZEROでプレゼン用のデータを作成し、Modelioに連携することで即座にウォークスルーや色替えなどのシミュレーション、パース作成などの提案資料が作成可能。Modelioで覚える操作も限定的で運用が始めやすい。

2

データ連携の方法

2-1 ModelioからZEROへの連携

ModelioからZEROへの連携方法について解説します。

※ ARCHITREND Modelio 2025・ARCHITREND ZERO (Build : 31005) 以降の画面での解説です。

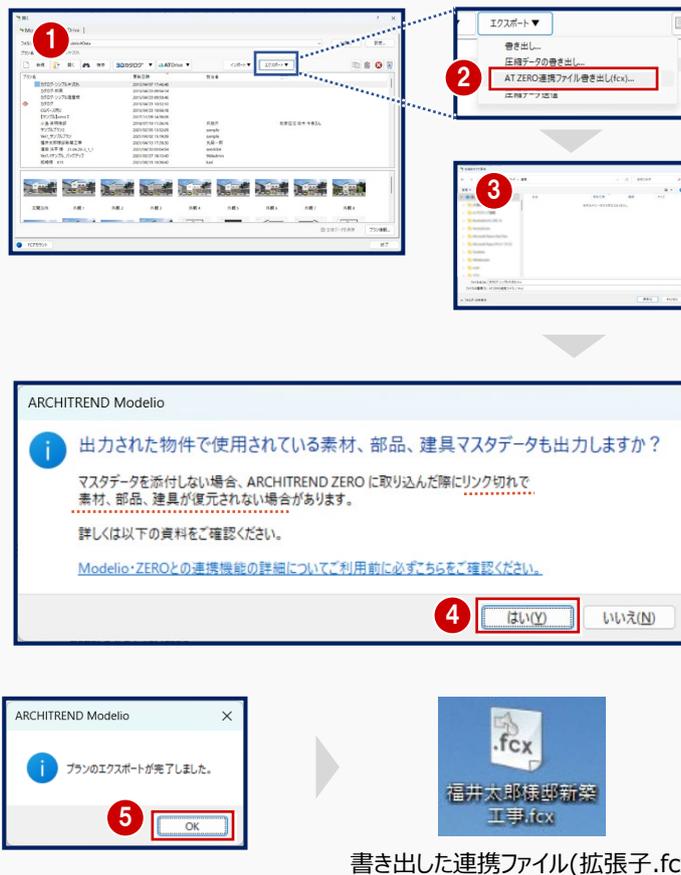
※ 連携ファイル作成前に「3-1 ModelioからZEROへの連携で事前に確認すべきこと」を必ず確認してください。



— ZERO 連携用のファイルを書き出し —

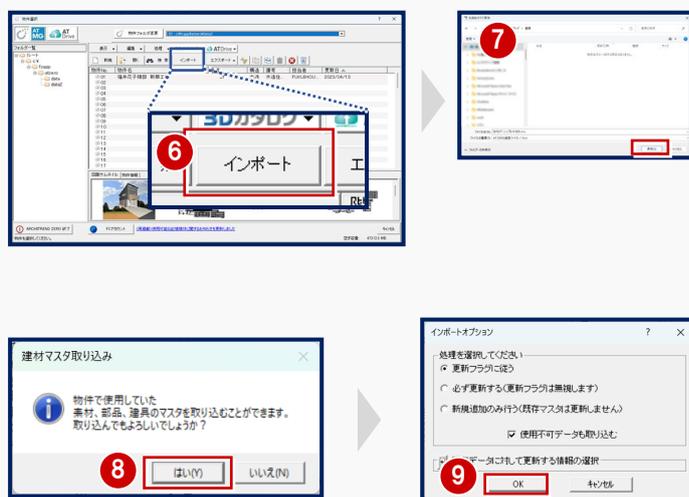
※書き出し前にリンク切れのない状態が確認してください。確認方法はP8~9を参照してください

- 1 Modelio の物件選択画面よりデータ連携する物件を選択します。
- 2 物件選択画面の「エクスポート」の中から、「AT ZERO 連携ファイル書き出し(fcx)」を選択します。
- 3 任意のフォルダに、AT ZERO 連携ファイル(拡張子.fcx)を保存します。
- 4 連携ファイルにマスターデータも添付する場合は「はい」を選択します。
(基本的に「はい」を推奨します)
※マスターデータを添付しない場合 ZERO 側でマスタが復元されない場合があります。
- 5 プランのエクスポートが完了したら、「OK」をクリックします。
連携ファイルの書き出しが完了します。

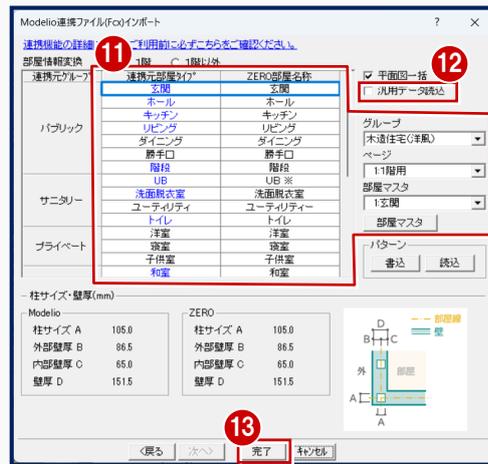
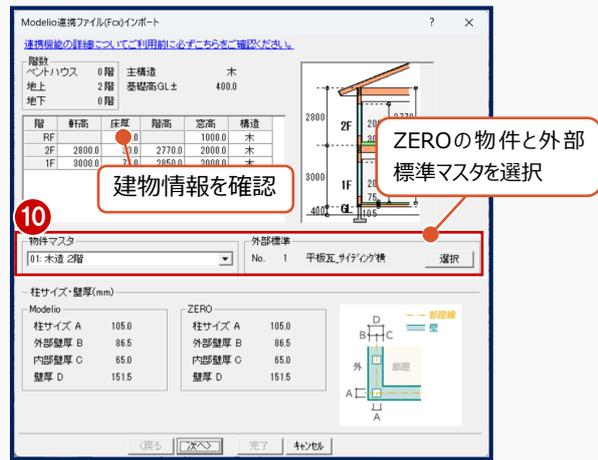


— 連携ファイルの読み込み —

- 6 ZERO の物件選択画面の「インポート」をクリックします。
- 7 上記⑤で書き出した連携ファイル(拡張子.fcx)を選択して「保存」を実行します。
- 8 マスターデータを取り込む場合は、「はい」を選択します。
※「いいえ」を選択すると連携後にリンク切れでマスタが復元されない場合があります。
- 9 インポートオプションで処理方法を選択し、「OK」をクリックして実行します。
※基本的に「更新フラグに従う」で構いません。

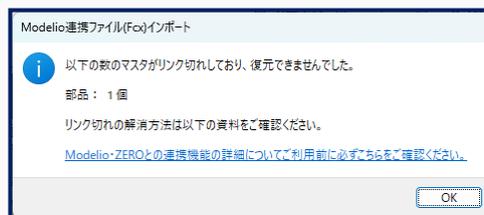


- 10 インポートで連携される建物情報を確認し、物件マスタと外部標準マスタを選択して、「次へ」をクリックします。
- 11 Modelio から連携される部屋を、ZERO の部屋マスタに変換する設定をおこないます。(必要に応じて部屋マスタを変更します)
- 12 寸法線やハッチングなど、汎用で描いたデータの読み込みの有無を設定します。読み込む場合はチェックをオンにします。
- 13 設定や確認が終了したら、「完了」をクリックします。
- 14 連携の対象となる図面の選択や確認をおこない、「OK」をクリックします。
- 15 一括自動立上のダイアログでは、「はい」をクリックします。
- 16 「OK」をクリックすると、自動立ち上げが開始され連携が完了します。



■ リンク切れで素材・部品・建具が復元されない場合

リンク切れでマスタが復元されなかった場合、下図のメッセージが表示されます。



「3-1 Modelio から ZERO への連携で事前に確認すべきこと」の「マスタチェックでリンク切れのない状態が確認」を確認しリンク切れがない状態で再度連携を試してください。その際に前記 4 と 8 では、必ず「はい」を選択しマスタを書き出し・取り込んでください。ユーザーマスタ、ArchiMaster は 3D カタログ.com よりダウンロードは出来ないため、社内のマスタ管理者にお問い合わせ頂き該当のマスタを取得し直すか、代わりの建材を指定してください。

2-2 ModelioからZEROへの連携【AT Drive編】

ARCHITREND Drive（以降、AT Drive）でModelioの物件データを管理していればModelioデータを連携ファイル書き出しせずともダイレクトにZEROへ連携することが可能です。

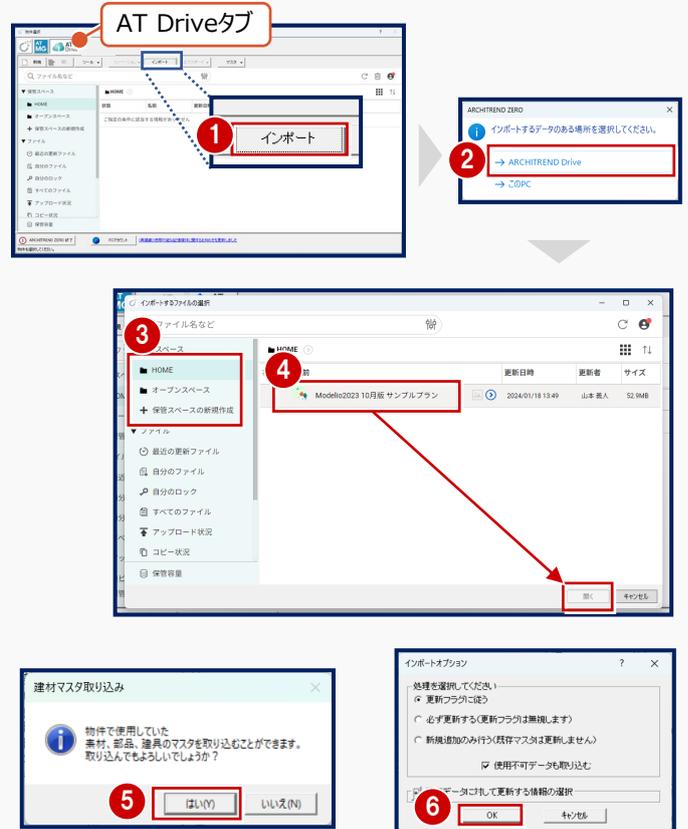
※ ModelioとZEROの物件データをAT Driveで管理している場合の解説となります。

※ 物件をAT Driveで管理する方法はZERO・Modelioそれぞれの物件選択画面からヘルプを御覧ください。

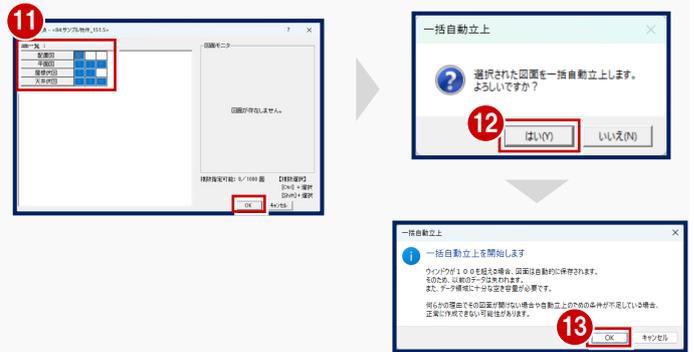
※ 連携ファイル作成前に「3-1 ModelioからZEROへの連携で事前に確認すべきこと」を必ず確認してください。

– Modelio データをダイレクト読み込み –

- 1 ZEROの物件選択画面（AT Driveタブ）より「インポート」を選択します。
- 2 インポートするデータの場所は、「ARCHITREND Drive」を選択します。
- 3 Modelioの物件データが保存されているスペースを選択します。
- 4 Modelioの物件データを選択し、「開く」をクリックします。
- 5 マスタデータを取り込む場合は、「はい」を選択します。
※「いいえ」を選択すると連携後にリンク切れでマスタが復元されない場合があります。
- 6 インポートオプションで処理方法を選択し、「OK」をクリックして実行します。
※基本的に「更新フラグに従う」で構いません。
- 7 インポートで連携される建物情報を確認し、物件マスタと外部標準マスタを選択して、「次へ」をクリックします。
- 8 Modelioから連携される部屋を、ZEROの部屋マスタに変換する設定をおこないます。
（必要に応じて部屋マスタを変更します）
- 9 寸法線やハッチングなど、汎用で描いたデータの読み込みの有無を設定します。
読み込む場合はチェックをオンにします。
- 10 設定や確認が終了したら、「完了」をクリックします。

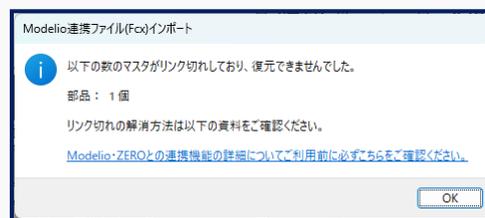


- ⑪ 連携の対象となる図面の選択や確認をおこない、「OK」をクリックします。
- ⑫ 一括自動立上のダイアログでは、「はい」をクリックします。
- ⑬ 「OK」をクリックすると、自動立ち上げが開始され連携が完了します。



■ リンク切れで素材・部品・建具が復元されない場合

リンク切れでマスタが復元されなかった場合、下図のメッセージが表示されます。



「3-1 Modelio から ZERO への連携で事前に確認すべきこと」の「マスタチェックでリンク切れのない状態か確認」「AT Drive のプランにマスタを添付する方法」を確認しリンク切れがない状態で再度連携を試してください。その際に前記⑤では、必ず「はい」を選択しマスタを取り込んでください。

ユーザーマスタ、ArchiMaster は 3D カタログ.com よりダウンロードは出来ないため、社内のマスタ管理者にお問い合わせ頂き該当のマスタを取得し直すか、代替りの建材を指定してください。

2-3 ZEROからModelioへの連携

ZEROからModelioへの連携方法について解説します。

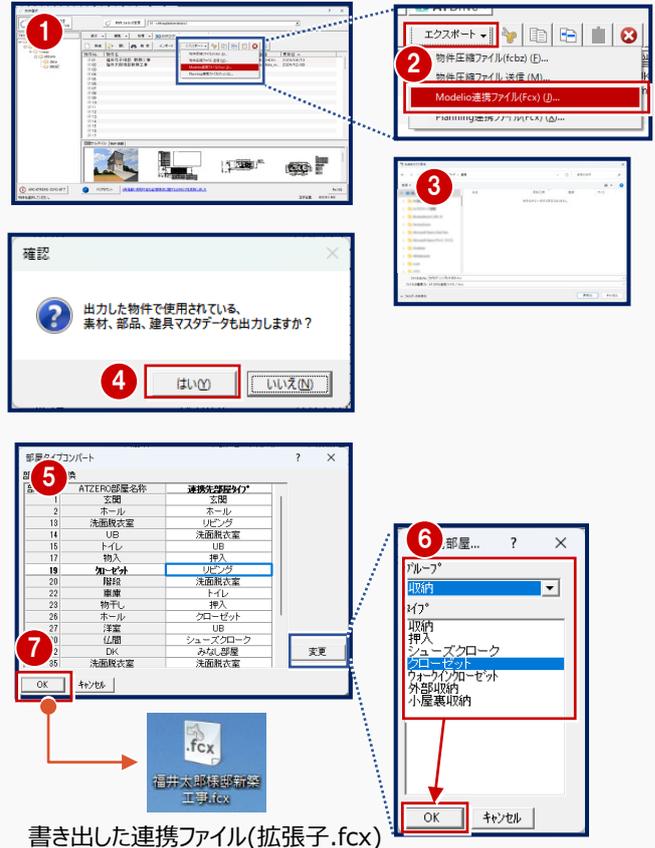
※ ARCHITREND ZERO (Build : 31005) ・ARCHITREND Modelio 2025以降の画面での解説です。

※ 連携ファイル作成前に「3-2 ZEROからModelioへの連携で事前に確認すべきこと」を必ず確認してください。



－ Modelio 連携用のファイルを書き出し －

- ① 物件選択画面より、データ連携する物件を選択します。
- ② ZERO の 物件選択画面の「エクスポート」から「Modelio 連携ファイル(Fcx)」を選択します。
- ③ 任意のフォルダに、AT Modelio 連携ファイル(拡張子.fcx)を保存します。
- ④ 連携ファイルにマスターデータも添付する場合は、「はい」を選択します。
(基本的に「はい」を推奨します)
※マスターデータを添付しない場合 Modelio 側でマスタが復元されない場合があります。
- ⑤ ZERO の部屋を、Modelio のどの部屋タイプに変換するかの設定と確認をおこないます。
- ⑥ 意図する連携先の部屋ではない場合は、該当の部屋を選択し「OK」をクリックします。
- ⑦ 「OK」をクリックすると、連携ファイルが書き出されます。



－ 連携用ファイルの取り込み －

- ⑧ Modelio の物件選択画面より、「インポート」-「AT ZERO 連携ファイル取り込み(fcx)」を選択します。
- ⑨ 上記③で指定した場所に、保存した⑦の連携ファイル(拡張子.fcx)を選択し、「保存」をクリックします。
- ⑩ マスターデータを取り込む場合は、「はい」を選択します。
※「いいえ」を選択すると連携後にリンク切れでマスタが復元されない場合があります。
- ⑪ インポートオプションで処理方法を選択し、「OK」をクリックして実行します。
※基本的に「更新フラグに従う」で構いません。



- ⑫ 取込み方法は「かんたん」※を選択し、任意のシリーズを選択します。
- ⑬ 「OK」をクリックして、連携を実行します。



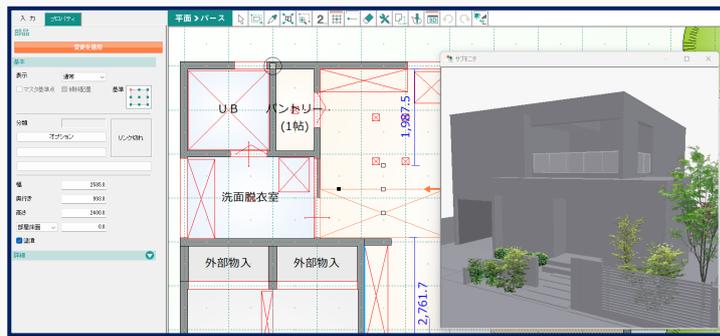
チェックを外すことでModelioのシリーズ設定を優先してデータを作成します。

壁厚が意図する値で連携されない場合に手で調整が可能です。

※ 「かんたん」「カスタマイズ」の取込み方法は ARCHITREND Modelio2025 以降かつ ARCHITREND ZERO Ver11.0 (Build:31005) 以降で書き出された連携ファイルが必要です。

■ リンク切れで素材・部品・建具が復元されない場合

リンク切れでマスタが参照できない場合、下図のように平面やパースで部材が復元されません。



「3-2 ZERO から Modelio への連携で事前に確認すべきこと」の「マスタチェックでリンク切れのない状態が確認」を確認しリンク切れがない状態で再度連携を試してください。その際に前記④と⑩では、必ず「はい」を選択しマスタを書き出し・取り込んでください。ユーザーマスタ、ArchiMaster は 3D カタログ.com よりダウンロードは出来ないため、社内のマスタ管理者にお問い合わせ頂き該当のマスタを取得し直すか、代わりの建材を指定してください。

2-4 ZEROからModelioへの連携【AT Drive編】

ARCHITREND Drive（以降、AT Drive）でZEROの物件データを管理していればZEROデータを連携ファイル書き出しせずともダイレクトにModelioへ連携することが可能です。

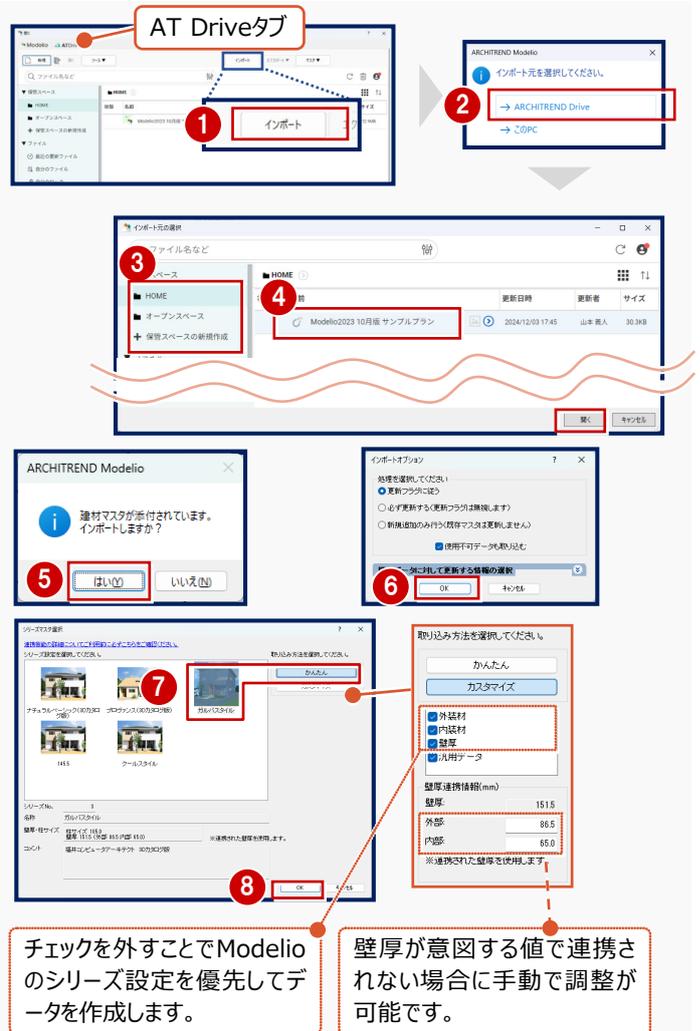
※ ModelioとZEROの物件データをAT Driveで管理している場合の解説となります。

※ 物件をAT Driveで管理する方法はZERO・Modelioそれぞれの物件選択画面からヘルプを御覧ください。

※ 連携ファイル作成前に「3-2 ZEROからModelioへの連携で事前に確認すべきこと」を必ず確認してください。

－ ZERO データをダイレクト読み込み －

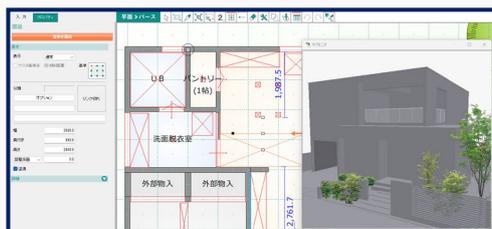
- 1 Modelioの 物件選択画面（AT Drive タブ）より、「インポート」を選択します。
- 2 インポートするデータの場合は、「ARCHITREND Drive」を選択します。
- 3 ZERO の物件データが保存されているスペースを選択します。
- 4 ZERO の物件データを選択し、「開く」をクリックします。
- 5 マスタデータを取り込む場合は、「はい」を選択します。
※「いいえ」を選択すると連携後にリンク切れでマスタが復元されない場合があります。
- 6 インポートオプションで処理方法を選択し、「OK」をクリックして実行します。
※基本的に「更新フラグに従う」で構いません。
- 7 取込み方法は「かんたん」※を選択し、任意のシリーズを選択します。
- 8 「OK」をクリックして、連携を実行します。



※ 「かんたん」「カスタマイズ」の取込み方法は ARCHITREND Modelio2025 以降かつ ARCHITREND ZERO Ver11.0 (Build:31005) 以降で書き出された連携ファイルが必要です。

■ リンク切れで素材・部品・建具が復元されない場合

リンク切れでマスタが参照できない場合、下図のように平面やパースで部材が復元されません。

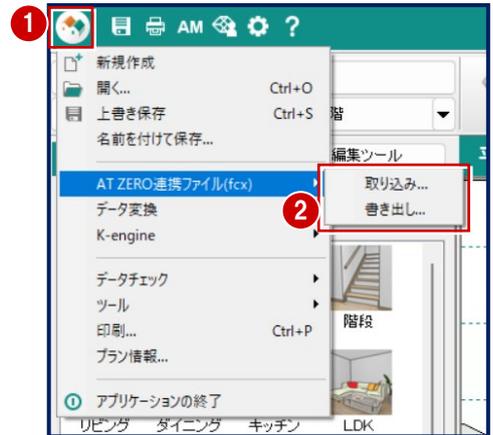


「3-2 ZERO から Modelio への連携で事前に確認すべきこと」の「マスタチェックでリンク切れのない状態が確認」を確認しリンク切れがない状態で再度連携を試してください。その際に前記⑤では、必ず「はい」を選択しマスタを取り込んでください。ユーザーマスタ、ArchiMasterは3Dカタログ.comよりダウンロードは出来ないため、社内のマスタ管理者にお問い合わせ頂き該当のマスタを取得し直すか、代替りの建材を指定してください。

2-5 補足

Modelio のプラン入力画面からも ZERO 連携ファイルの取り込みと書き出しが可能です。

- 1 処理選択メニューをクリックします。
- 2 「AT ZERO 連携ファイル(fcx)」メニューの「取り込み」、または「書き出し」を選択します。



3

補足・注意

3-1 ModelioからZEROへの連携で事前に確認すべきこと

■ Modelio のシリーズ設定の壁厚と ZERO の壁厚を合わせておく

ZERO に連携した際は ZERO のマスタで設定してある仕上げ厚でデータが作成されます。そのため Modelio と壁厚が異なると壁に沿って配置した水平面や屋根などの部材の間に隙間が生じる場合があります。

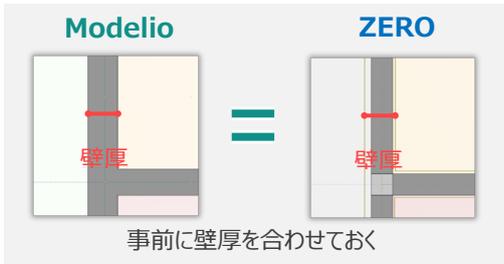
Modelio で入力した水平面（棚部分）



ZERO 連携後、壁厚が異なると…



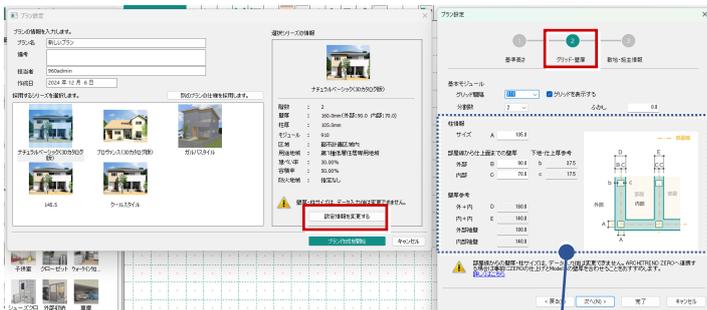
その場合は Modelio の壁厚を ZERO で作成される壁厚（仕上げ厚含む）に合わせておくと隙間なく連携されます。



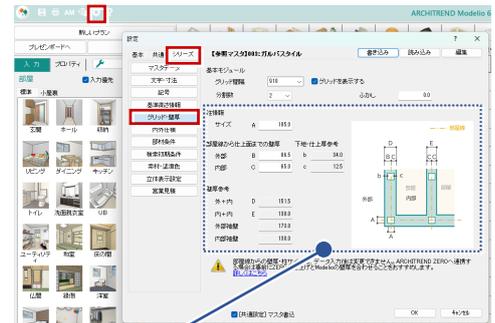
Modelio の壁厚の設定は新規プラン作成時の設定より変更が可能です。データ入力前であれば「設定」-「シリーズ」-「グリッド・壁厚」より変更が可能です。

※データ入力後は壁厚の変更ができないため注意してください。

Modelio プラン新規作成



Modelio シリーズ設定



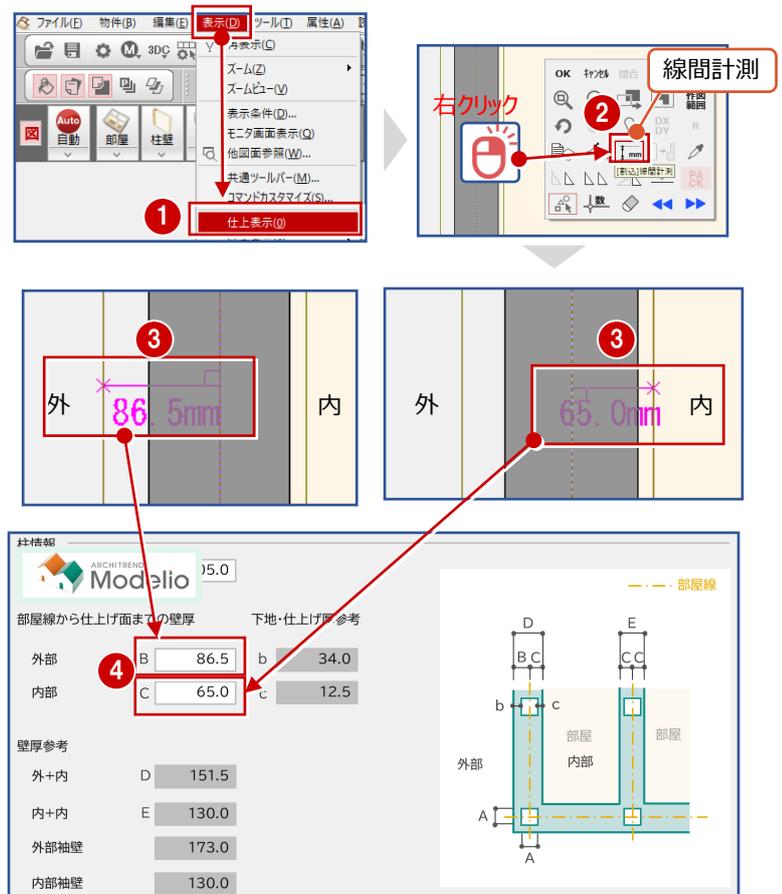
柱情報	
サイズ	A 105.0
部屋線から仕上げ面までの壁厚 下地・仕上げ厚参考	
外部	B 86.5 b 34.0
内部	C 65.0 c 12.5
壁厚参考	
外+内	D 151.5
内+内	E 130.0
外部袖壁	173.0
内部袖壁	130.0

■ ZERO の壁厚を確認する方法

ZERO のどの部分の壁厚を Modelio に設定すべきかを確認します。

－ 線間計測で外部と内部の厚みを調べる －

- 1 平面図において、上部メニューの「表示」-「仕上表示」を選択します。
外壁・内壁仕上げが表示されます。
- 2 平面図でマウスの右ボタンを押して表示されるポップアップメニューから、「線間計測」を選択します。
- 3 部屋の中心線をクリックし、次に外壁、または内壁仕上げをクリックします。
- 4 表示される値を、Modelio の「設定」-「シリーズ」-「グリッド・壁厚」の外部・内部の厚さに設定することで同じ壁厚となります。



■ マスタチェックでリンク切れのない状態が確認

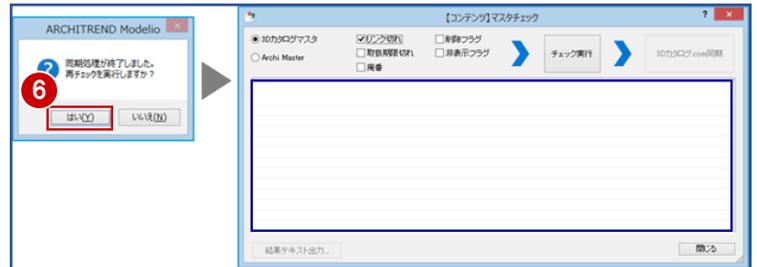
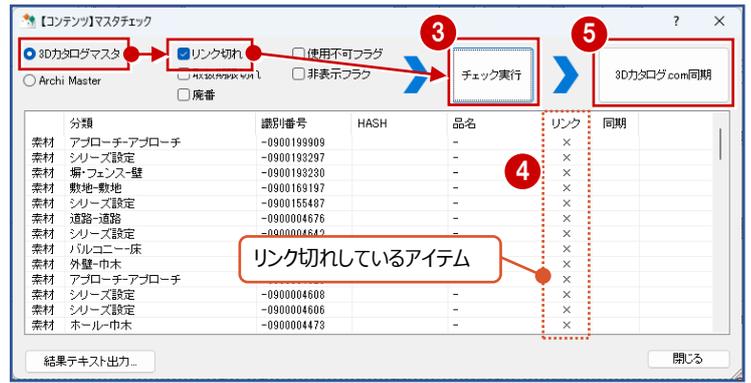
ZERO 連携ファイルを書き出す PC で物件データに配置されている素材・部品・建具マスタがリンク切れしていない状態でマスタデータ付きの連携ファイル書き出しをおすすめしています。マスタチェックの方法を確認しましょう。

－ マスタチェックの手順 －

- 1 「処理メニュー」-「データチェック」-「マスタチェック」を選択します。
- 2 チェックの対象階を選択します。
本書では、「全階」を選択します。
- 3 チェック対象を選択します。
本書では、「3D カタログマスタ」を選択し、「リンク切れ」にチェックを入れて、「チェック実行」をクリックします。



- 4 リンク切れしているマスタがあるか確認します。
※リンク切れしているマスタがある場合には、「リンク」列の欄に「×」が表示されます。
- 5 リンク切れマスタがメーカー建材であれば、3Dカタログサイトからのダウンロードが可能なので、「3D カタログ.com 同期」を選択します。
- 6 確認画面から「はい」をクリックして、再度チェック処理を実行します。
※一覧に何も表示されなくなったら、リンク切れが解消されたことになります。



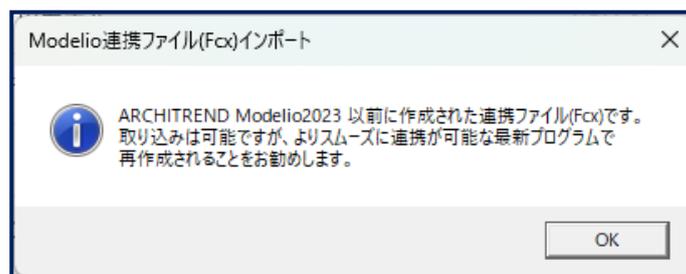
- 7 Archi Master のリンク切れをチェックする場合は、「Archi Master」を選択し、「リンク切れ」にチェックを入れ「チェック実行」をクリックします。
- 8 プランで使用されている Archi Master のアイテムが一覧として表示されます。
※リンク切れしている場合は、「リンク」列の欄に「×」が表示されます。



※ Archi Master と、3D カタログのユーザーデータがリンク切れし、どうしても元マスタが見つからない場合は違う建材などに置き換える必要があります。

■ 連携ファイルは Modelio2025 で作成する

Modelio 2023 以前に作成された連携ファイルを ZERO (Build:31005) 以降のプログラムで読み込む際に、下図のメッセージが表示されます。



Modelio 2025 ではより精度が高くスムーズに連携できる改良を加えているため上記のメッセージが表示される場合は、Modelio 2025 にアップデートした上で再度連携ファイルを作成することでメッセージが解消され、よりスムーズな連携が可能となります。

■ AT Drive で Modelio のプランデータを管理し、連携している場合

AT Drive で Modelio 2023 以前に保存されたプランを ZERO (Build : 31005) 以降のプログラムでインポートする際に、下図のメッセージが表示されます。



Modelio 2025 ではより精度が高くスムーズに連携できる改良を加えているため Modelio 2023 で AT Drive に保存したデータを連携する場合は、Modelio 2025 にアップデートした上で再度 AT Drive に保存されているプランを上書き保存することでメッセージが解消され、よりスムーズな連携が可能となります。

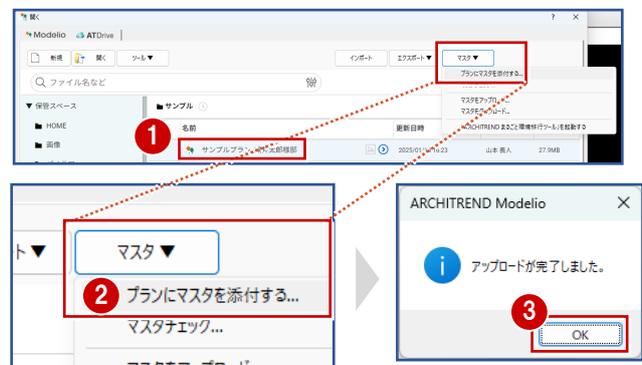
■ AT Drive のプランデータにマスタを添付する方法

AT Drive でプランを管理している場合、連携前にプランデータにマスタを添付しておくことでマスタのリンク切れを防ぐことが可能なためおすすめです。

※ 「3-1 Modelio から ZERO への連携で事前に確認すべきこと」の「マスタチェックでリンク切れのない状態か確認」でリンク切れがないことを確認したうえで実施してください。

－ プランにマスタを添付する方法 －

- 1 マスタを添付したいプランを選択します。
- 2 上部メニューより、「マスタ」 - 「プランにマスタを添付する」を選択します。
- 3 処理完了のメッセージボックスが表示されるので「OK」をクリックします。



※ マスタを添付することでデータのファイルサイズが大きくなるため AT Drive の保管容量にご注意ください。

3-2 ZEROからModelioへの連携で事前に確認すべきこと

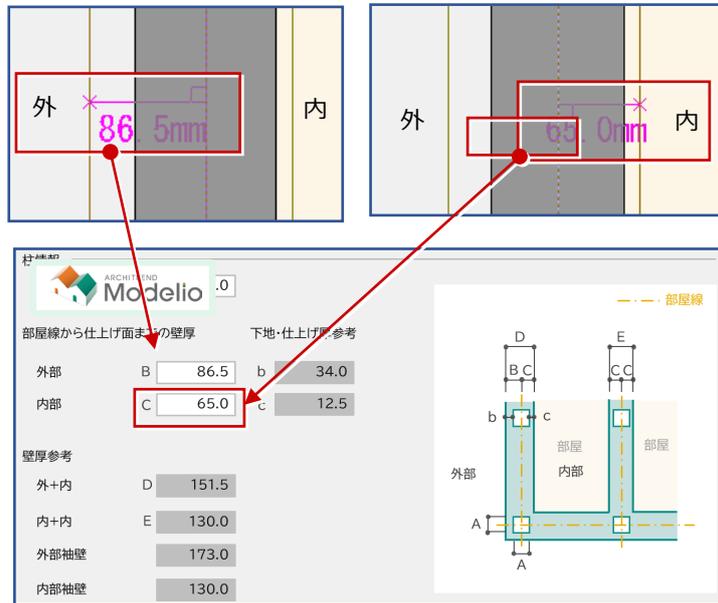
■ 部品・建具・部材は仕上げ面に合わせて配置すると良い

Modelio の壁厚は仕上げ面までを考慮した物となっているため、駆体面で部品・建具・部材を配置すると Modelio に連携した際に壁に食い込んだ表現となります。



■ Modelio に連携される壁厚の設定

ZERO から Modelio ヘデータ連携する場合、ZERO で入力したプランの壁の中心線から仕上げ面までが Modelio の外部と内部の壁厚として連携されます。Modelio ではすべての部屋の壁厚が一律になります。ZERO で個別に壁厚を変更している箇所があってもプランで一番利用されている外壁仕上げと内壁仕上げの設定を元に壁厚を連携します。



－ 連携する壁厚を調整する場合 －

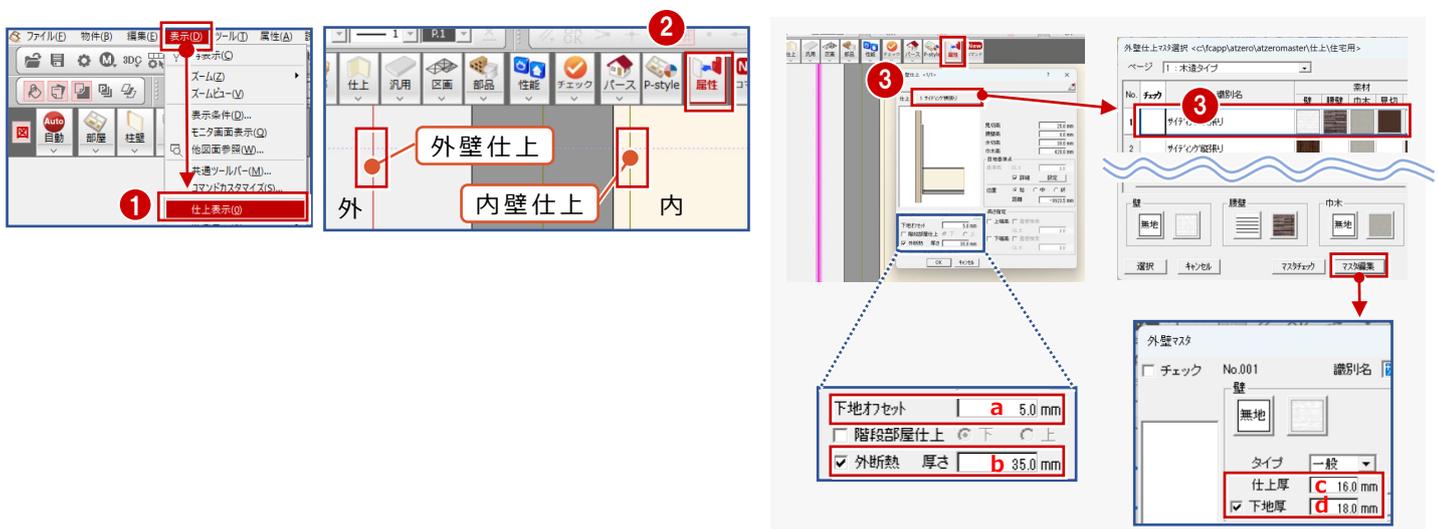
- 1 平面図において、上部メニューの「表示」-「仕上表示」を選択します。
- 2 外壁仕上、または内壁仕上を選択して、「属性」コマンドで属性を表示します。
- 3 壁厚に反映される設定は下記の通りで、いずれかの設定で壁厚の調整が可能です。

外壁仕上げの場合 : a (下地オフセット) + b (外断熱) + c (仕上厚) + d (下地厚)

内壁仕上げの場合 : a (下地オフセット) + c (仕上厚) + d (下地厚)

※ 移動コマンドなどで個別に移動した仕上げの位置は反映されないので注意してください。

※ Modelio 連携後の壁厚は一律で作成されるため、個別で変更した壁厚の設定は連携されません。

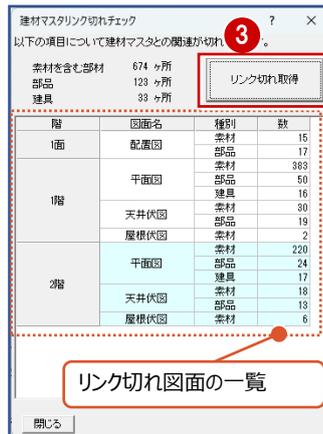


■ マスタチェックでリンク切れのない状態が確認

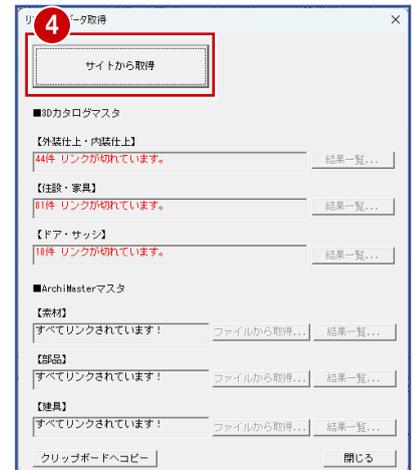
Modelio 連携ファイルを書き出す PC で物件データに配置されている素材・部品・建具マスタがリンク切れしていない状態でマスタデータ付きの連携ファイル書き出しをおすすめしています。マスタチェックの方法を確認しましょう。

－ マスタチェックの手順 －

- ① マスタチェックを行う物件データを選択します。
- ② 上部メニューより、「処理」-「建材マスタリンク切れチェック」を選択します。
- ③ リンク切れしている場合は、「リンク切れ取得」を選択します。
- ④ リンク切れマスタがメーカー建材であれば、3D カタログサイトからダウンロードが可能なので、「サイトから取得」を選択します。
※ ユーザーデータと ArchiMaster はサイトから取得できません。
- ⑤ 手順①②で再度リンク切れのチェックをおこないます。



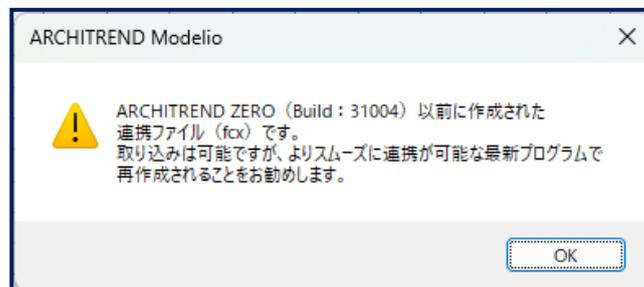
リンク切れ図面の一覧



※ Archi Master と、3D カタログのユーザーデータがリンク切れし、どうしても元マスタが見つからない場合は違う建材などに置き換える必要があります。

■ 連携ファイルの作成は ZERO (Build : 31005) 以降のプログラムで作成する

ZERO (Build : 31004) 以前のプログラムで作成された連携ファイルを Modelio2025 で読み込む際に、下図のメッセージが表示されます。



より精度が高くスムーズに連携できるよう改良を加えた ZERO (Build : 31005) 以降のプログラムになるようアップデートした上で再度連携ファイルを作成することでメッセージが解消され、よりスムーズな連携が可能となります。

■ AT Drive で ZERO の物件データを管理し、連携している場合

AT Drive で ZERO（Build：31004）以前のプログラムで保存された物件データを Modelio 2025 からインポートする際に、下図のメッセージが表示されます。



より精度が高くスムーズに連携できるよう改良を加えた ZERO（Build：31005）以降のプログラムになるようアップデートした上で再度 AT Drive に保存されている物件データを上書き保存することでメッセージが解消され、よりスムーズな連携が可能となります。

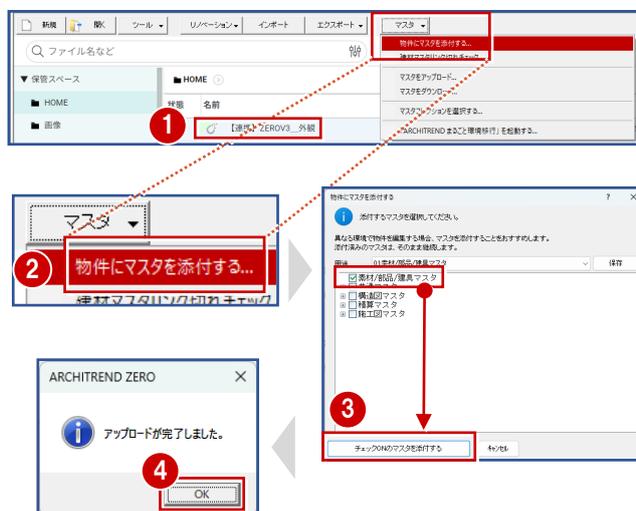
■ AT Drive の物件データにマスタを添付する方法

AT Drive でプランを管理している場合、連携前にプランデータにマスタを添付しておくことでマスタのリンク切れを防ぐことが可能なたためおすすめです。

※ 「3-2 ZERO から Modelio への連携で事前に確認すべきこと」の「マスタチェックでリンク切れのない状態が確認」でリンク切れがないことを確認したうえで実施してください。

－ プランにマスタを添付する方法 －

- 1 マスタを添付したいプランを選択します。
- 2 上部メニューより、「マスタ」 - 「物件にマスタを添付する」を選択します。
- 3 添付するマスタは、「素材／部品／建具マスタ」にチェックを入れ、「チェック ON のマスタを添付する」を選択します。
- 4 アップロードは完了したら、「OK」をクリックします。



※ マスタを添付することでデータのファイルサイズが大きくなるため AT Drive の保管容量にご注意ください。

3-3 連携対象外の部材一覧

ARCHITREND Modelio から ARCHITREND ZERO への連携対象外部材

図面	部材	備考
共通	内・外の手摺開口	
	汎用 立体のカマボコ	

※ 敷地の寸法線や文字などは1F平面図に連携されます。

ARCHITREND ZERO から ARCHITREND Modelio への連携対象外部材

図面	部材	備考
共通	ATZ 部品・建具	
	自由鉛直面	
	自由押出形状	
	汎用開口	
	汎用積算シンボル	
	積算パーツ	
	法面	
	区画	
	性能	
配置図	歩道	
	建物（建物区画・延焼線・出入口マーク）	
	螺旋階段	
	ガラスブロック	
	擁壁	
	外部手摺	
	植込	
	自動車軌跡	
	表札・看板	
	飛び石	
	簡易建物	
	寸法線や文字などの 2D 汎用	
平面図	外部部屋	 部屋属性で「車庫」以外の「外部部屋」に設定されている部屋は、個別の部材で連携される
	柱	 連携されるのは、通柱・造作柱・床柱・真壁柱のみ
	半壁などの個別の壁の厚み・ふかし壁	 壁の厚さは一律となる
	螺旋階段	
	大広間	
	柵目	

	造作棚		
	パーティション		
	掘りごたつ		
	式台		
	床下収納		
	床下点検口		
	壁点検口		
	設備（スイッチ・コンセント、床暖房、壁付換気設備）		
	ガラスブロック		
	表札・看板		
	ドライエリア		
	袖壁		
	ベランダ		
	付柱		
	排水（縦樋、縦型ドレイン、横型ドレイン）		
	スラブ		
	床部分目地		
	床ハッチ		
天井伏図	天井部分目地		
	かまぼこ		
	ドーム		
	天井シンボル（カーテンボックス・見切縁・収納点検口・換気口）		
	汎用（水平面・鉛直面など）		
屋根伏図	軒線		
	妻壁		
	化粧母屋		
	化粧垂木		
	棟換気		
	簡易屋根（カマボコS・ドームS）		
	曲り		
	はい樋		
	集水器		
	排水（縦型ドレイン、横型ドレイン）		

- ※ 配置図が複数ある場合でも、1面目のみ読み込みます。
- ※ ユニットバスの建具枠設定・素材は連携されません。
- ※ 土台水切りは連携されません。
- ※ ポーチ柱の柱脚の柱受け金物は連携しません。
- ※ 構造図の部材は連携しません。